

第62回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成29年9月12日（火） 15：00－16：10

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、青木委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

高田宇宙開発戦略推進事務局長、佐伯審議官、佐藤参事官、高倉参事官、滝澤参事官、山口参事官、行松参事官

(3) 関係省庁

内閣官房 内閣衛星情報センター管理部 芹澤部長

総務省 国際戦略局 宇宙通信政策課 翁長課長

文部科学省 研究開発局 宇宙開発利用課 谷課長

経済産業省 製造産業局 田中審議官

防衛省 防衛政策局 岡次長

4. 議事次第

(1) 平成30年度概算要求における宇宙関係予算について

(2) その他

5. 議事

(1) 平成30年度概算要求における宇宙関係予算について

平成30年度概算要求における宇宙関係予算について、事務局より、説明し、以下の議論があった。

○ 衛星データのオープン&フリー化について、衛星データは、JAXAや文科省とも話し合いをしつつということだが、イメージとしては、経産省のASTERのようなセンサーデータに加えて、ほかの観測データも統合していくという方針か。(山崎委員)

● 活用できる観測衛星のデータについては、なるべく広く拾っていきたいと考えている。具体的にどの衛星のデータとするかについては、現在、一つ一つ文科省、JAXAと調整中である。(経済産業省)

- これから、このデータベースを日本としてどう維持するか。データベースをつくると、その後の維持費が、電力が非常にかかる。世の中では Amazon のように、もう既にあるものを使うという形もあり、その中で日本としてどのように大量のデータを扱っていくのかという戦略が必要となる。これまでもプラットフォームのいろいろ事業が行われていたが、あまりうまくいかなかったと思っている。それは、最後の出口の情報が十分に議論されず、つくったはいいが、出口の人から見たら非常に使いにくいものになっていたという反省があるのではないかと思っている。そういうことも踏まえて、いろいろな事業の方々に入っていていただき、彼らのニーズのもとで、どういうところまでやるのかということを考えていかなければいけない。そういう意味で、使う人たちを入れていくことが非常に大事であるため、その辺りも一緒にやっていただきたい。（中須賀委員）
- 現在、検討会を立ち上げて様々な専門家と議論しているが、未来永劫国費でこれを維持していくというのが果たして正しい姿なのか、という話が出ている。また、民間主体で事業化をすることによって、事業運営主体がユーザー、ニーズを広げてくモーメントがかかるのではないかと、といった意見や、国費にずっと依存していて、果たして本事業が発展するだろうか、といった意見も出ている。加えて、既に蓄積されているデータが膨大であるため、これを何カ年かに分けてオルソ処理をしていくところまでは国費をかける、いわゆる初期コストを下げるために一定の国費投資をする。それがある程度進んだ段階で、いずれ民営化することを前提として、当初から事業を仕組ませていくべきではないか、という意見もある。引き続き、専門家の議論を聞きながら、方向性をまとめていきたいと思っている。（経済産業省）
- 時間軸多様化を含めて10機体制ということですが、必要最小限の機数と理解しており、日本として情報収集能力を最大化する必要がある。また、データ量の増加とともに、データ処理能力の拡大と即時性の確保という観点も極めて重要だと思っており、それが結果として政府予算をいかに効率的に使っていくかという答えになると思っている。そのため、ぜひとも両方の方向性を追求していただきたい。（山川委員）
- 防衛省に関して、Xバンド衛星通信の3機体制ということで、これは実は非常に重要だと思っており、着実に進めていただきたい。それから、宇宙に関する演習について、米軍との演習に積極的に参加していく方向性となっており、これも極めて大事なことであるため、米軍との人事交流についても進めていただ

きたい。最後は人だと思っており、それが日米の連携を極めて強固にするのではないかと思っている。(山川委員)

- 文部科学省の中でさまざまな予算要求をしているもの、総務省から説明があったもの、経産省から説明があった様々なデータの活用といったものをどのように安全保障に生かしていけるのかということを考えるために、情報がいつもうまく手に入るような形の連携が必要だと思っている。重要な部分は一定の人にしか行かない仕組み、かつ、利用可能な技術として存在するのかがわかるようにしていく必要がある。難しいことだとは思いますが、少ない予算であっても日本の安全保障を高めていけるような形で宇宙を使っていたきたい。(青木委員)
- 総務省について、量子暗号は、通信技術としても重要であるが、防衛あるいは産業という観点からも極めて重要だと思っているため、省庁間でも連携しながら将来に向けて積極的に進めていただきたい。(山川委員)
- 文科省に対して、今回の予算の中で、特にH3の開発が非常に大きな要素を占めているが、宇宙輸送手段としてH3は極めて重要なため、予算的には非常に厳しい状況ではあるが、着実に予算を獲得してほしい。もう一つ、HTV-Xについて、運用コストを大幅に削減するとあるが、もともとは開発コストと運用費の両方を足したコストが最終的には縮減できるため、極めて効果的であるということでスタートしていると考えている。そのあたりの意識も考慮して開発を進めていただきたい。(山川委員)
- いろいろなところで、今、民間も含めて宇宙の新しい流れが出てきていて、特に小型衛星がたくさん低軌道あたりで使われ始めている。そういうことを考えたときに、例えば文科省の光通信衛星で、低軌道から光で静止軌道に送れるというのは大きな強みである。現在、周波数資源は非常に限られてきて、Xバンドの地球観測衛星はほとんど逼迫して使いづらい。そういったときに光で送れるということは、周波数免許という観点、弱い電力で大量に送れるということ、latencyがなくリアルタイムに近い送信ができるといったような様々なメリットがある。そのため、先進光データ中継衛星でそういったものへの応用もできるような方向でお考えいただきたい。同じ話で、防衛省は、地球観測衛星が撮る画像について、高い分解能ではないかもしれないが、現在、1メートル程度まで発達しており、そういった画像をまずはお試しで使っていただき、それでよければある種のアンカーテナンシーのように年間幾らという形で購入していけば、そういった企業がさらに発展して、よりいいものをつくってく

る。非常に安く手に入ると考えているため、そういったこともお考えいただきたい。総務省は、量子暗号、テラヘルツは非常に大事だと思っている。テラヘルツセンサーはいろいろな利用の仕方があるため、それを利用開拓も含めて一緒にやっていくことが大事だと思っている。(中須賀委員)

(2) その他

宇宙産業ビジョン2030を踏まえた取り組み状況、準天頂衛星みちびき4号機の打上げ日程について、事務局より報告し、以下の議論があった。

- 宇宙産業ビジョン2030を踏まえた取り組みについて、実際に本当にそういう動きが起こってきたのはいいことであるため、継続して進めて頂きたい。(中須賀委員)

- 昨日、宇宙ステーション「きぼう」からの小型衛星放出、グアテマラ共和国の衛星を国連との共同で放出するということが決定され、ケニアに続いて両国ともそれぞれ初の人工衛星ということで、そちらも非常に期待されていると思っている。そのため、幅広い海外展開を含めて、今後とも引き続きお願いしたい。(山崎委員)

以上